

東京での 2 日間の企業研修、及び東大研修が終わった。企業訪問のアポイントメントを取るのにも苦労し、多くの準備を重ねてきただけに、達成感も大きなものとなった。

初日私たちは東京に着くと、まず霞ヶ関ビルへと向かった。ディレクトフォースで笹川平和財団の皆さんのお話を聞くためだ。最初に、筋電義手をはじめとするブレイン・マシン・インターフェイスの研究に従事されている近藤玄大さんの話を学年全体で聞いた。近藤さんからは「ものづくりとは何か」についての話を聞いた。この話の中で私は、「手が無いことを隠すのではなく個性として捉える」という言葉が 1 番印象深かった。このような考えが世間にこれまで以上に浸透し、それに沿ったものづくりが行われればより多くの人にとって住みやすい世の中になると思う。また、これからのものづくりでは大量生産よりも消費者のニーズに合わせたものづくりが求められていくのではないかとも思った。

次に、グループセッションが始まった。私のグループは長崎さん、遠藤さん、角田さんの話を聞いた。私が最も印象に残ったのは遠藤さんの話だった。遠藤さんは複眼思考というのをテーマに話してくれた。複眼思考とは物事を 1 点からではなく、多角的に捉えて考えることである。その例として日本地図を挙げて説明してくれた。私たちは普通、日本が中心にある地図を見る。しかし、日本が中心になかったり、逆さになっている地図を見ると、世界情勢がよく見えてくる。現在問題になっている竹島も逆さの地図を見てみると、日本の領土と主張している政府が不思議に思えてきたりもする。日本よりも韓国の方が遥かに竹島に近いからだ。このように、問題を多方面から捉えることが大事であるということがわかった。自分も、社会に出で必要な人間となれるように複眼思考を養っていきたい。

また、遠藤さんは日本とアメリカの教育の違いについても教えてくれた。日本では $3 \times 4 = \square$ になる答えを探させるのに対して、アメリカでは $\square \times \square = 12$ になる答えを探させる教育だという。そして、実際に社会に出て必要な力はアメリカのタイプの問題を解決する能力である。だから、私も答えを出すだけでなくその答えを出すに至ったプロセスをこれからは大事にしていきたい。そうすることで、今やっている勉強が社会に出てからも生きてくると思う。

午後からは、企業訪問で、江戸川病院の岩本航先生の元を訪れた。岩本先生はスポーツドクターとして、ヤクルトスワローズのチームドクターもやられている先生だ。自分はこのような仕事に興味を持ってはいたものの、スポーツドクターがどのような仕事なのかや、整形外科との違いはよくわかっていなかった。そのため、今回のお話でスポーツドクターの事についてよくわからなかったたくさんのお話を学べた。まず、最初にスポーツドクターと整形外科の違いについて教えていただいた。整形外科の先生は肩や肘などのそれぞれの専門的分野について狭く深く携わるのに対して、スポーツドクターは様々な分野に対して広く浅く携わらなければいけないようだ。実際にプロ野球チームのドクターとして現場に行ったときに専門の体の部分しか診察できなければ使いものにならないようだ。そのた

め、医者になってからもたくさんの勉強が必要だと言っていた。また、整形外科は単に怪我の治療を目的とする。だがスポーツドクターはスポーツへの早期復帰を目的とするため、治療をした後のアフターケアも充実しているとのことだった。他にも治療方法でも整形外科とスポーツドクターで違いがあるという。整形外科は外科なので、怪我の治療として手術を行うことが多い。だが、スポーツドクターが同じように手術ばかりしてはスポーツに復帰するのに時間がかかってしまう。確かに重大な怪我であれば手術をしなければいけない。しかし、手術をできるだけしないようにと意識しながら、スポーツドクターは治療法を日々考えているという。日本ではスポーツドクターは少ないので、今回は岩本先生から他では聞けない貴重な話をたくさん聞かせていただいた。そして、これまで以上にスポーツドクターの仕事に興味を持つようになった。これからは自分なりにスポーツドクターの仕事について調べ、今後の進路選択に役立てていきたいと思う。

企業研修が終わりホテルに帰り食事を済ますと、二高 OB や OG の東大生の話を聞く会が始まった。ここでは、高校での生活や勉強方法などについての話を聞いた。ここでの話を聞く中で、東大生の人たちも自分が今感じている苦悩などを同じように感じていたことがわかり安心した。また、勉強方法については、どの OB や OG も教科書が大事だと言っていた。自分は正直、特に数学では教科書の内容を舐めていた。教科書にある例題は応用問題ではなく、簡単なものばかりだからだ。そのため、教科書を使って勉強することは今までほとんどなかった。しかし、東大生の方は教科書を読んで数学の本質を捉えることで見たことのない応用問題にも対応できるようになると言っていた。日本のトップの大学に通う学生が教科書は重要だと言っているのだ。それを私がないがしろにしていい訳がない。これからは、教科書にもよく目を通すようにしていきたい。東大生の方々は想像以上にユニークな方が多く、楽しみながら話を聞くことができた。私たちのために時間を取ってくれた二高 OB や OG 皆さんに感謝したい。

2日目は東大見学だった。午前中は駒場キャンパスを訪れた。この東大見学では、東大の「Fair Wind」という団体の皆さんに案内をしてもらった。東大の施設を見学したり、大学の選び方についての話を聞いた。ここで聞いた話をこれからの大学の進路選択に役立てていきたいと思った。

午後からは本郷キャンパスへと行った。東大の名物ともいえる赤門はテレビで見る以上にかっこいいと思った。本郷キャンパスでは農学部の見学をした。まず、東大の教授の話を聞き、その後研究室を回った。東大の研究室には1台数千万円もする機械がたくさんあり、研究する環境が非常に整っていると感じた。また、大学内には東京大学のシンボルでもある銀杏の木がたくさん植えられ、非常に落ち着いた雰囲気だと感じ、勉強するには素晴らしい環境だと思った。今までは東大に進学することなど考えてもいなかったが、今回の東京大学見学を通してどうせなら日本のトップの大学で勉強したいという気持ちも芽生えてきた。東大に進学するためにはもちろん高い学力が必要不可欠である。だが、自分

の学力が足りないからと言って行きたい大学への進学を諦めてしまうのは非常にもったいないと思う。自分の学力をその大学のレベルまで引き上げればいい話であるからだ。

今回の研修を通して私はたくさんのことを学ぶことができた。また、多くの人との対話を繰り返す中で、自分にはなかった新たな価値観を知ることができた。そして、自分の進路について考えるよいきっかけともなった。この経験を生かして自分の進路についてよく考えていきたいと思った。しかし、いくら将来の夢を持ったとしても、それを実現するためには高い学力が必要となることも少なくないだろう。そのようなときに手遅れとならないよう、これから、「自分の可能性を広げる」という意味でも勉強をがんばっていきたいと思った。このようにたくさんの方の貴重な経験をさせてもらい、自分の進路について考えるきっかけも与えてくれた東京研修。このような機会を作ってくれた先生方はもちろん、笹川平和財団の皆さん、岩本航先生、東大生の方などたくさんの方に感謝したいと思う。本当にありがとうございました。